

23.10.14

美郷・南郷

ウナギ研究先進地に NPO法人の施設着工



美郷町南郷区の旧渡川小学校舎などを利用して整備される親ウナギ育成研究施設の完成予想図

NPO法人ゼンター・ライオン&リバー（宮崎市、大森（由）理事長）が美郷町南郷区渡川に建設する親ウナギ育成研究施設の起工式が13日、同地区の旧渡川小体育館であった。

ウナギの稚魚であるシラスウナギの採捕量が減少する中、親ウナギの育成、放流という世界初の研究に取り組む施設。町や同法人関係者ら約

70人が出席し、工事の安全を祈願した。

施設には、昨年度で閉校した旧渡川小学校舎やグラウンドを活用する。校舎近くの川沿いに三つの池を整備。自然な環境の下、異なる条件でウナギが産卵可能になるまでの生育状況を観察する。

また、研究所を訪れる観光客向けに自然と調和した庭園も整備。地域おこしにも寄与

したい考えだ。いずれも来年3月の完成を目指す。施設完成後、ウナギ研究の世界的な権威として知られる東京大学大気海洋研究所の塚本勝巳教授が所長に就任する。

起工式には河野知事も出席。「研究が関連産業の発展やウナギの安定供給につながるほしい」と期待。菊田彦

市美郷町長は「自然との共生の在り方も示唆する研究。支援、協力していきたい」とあいさつした。

シラスウナギは全国的に不漁が続く。県によると、県内の採捕量は2008年度漁期で1430キログラムだったが、09年度は545キログラム、10年度は422キログラムと激減している。

美郷にウナギ研究施設

25.7.29

宮崎市の NPO法人

産卵行動など謎が多いウナギの生態を研究しようとして、宮崎市のNPO法人セーフティ・ライフ&リバー（大森仁史理事長）が美郷町南郷区に施設を建設することになり、28日に同法人と町の間で協定が交わされた。近年はシラスウナギの採捕量が激減し、養鰻業関係者らにとっては深刻な状況。研究施設では東京大気海洋研究所教授らの支援を受け、自然を生かした環境下で親ウナギの育成状況を調べることにも、放流の可能性を探って資源保護につなげることを考えた。

同法人は「自然が豊かで、町の協力態勢もあ

10月池整備、廃校活用



ウナギ生態研究室として活用される旧渡川小校舎の前で会話をしている大森理事長（中央）ら。28日午後、美郷町南郷区

る「なまじり」して、場所を選定。町が確保した同区上渡川の土地（約1.8畝）を有償で借り、10月までに三つの池を整備する。小丸川支流の渡川から水を引き、池によって生育条件を変えるなどして成長の様子をチェック。河川での生態観察が不十分な現状を踏まえ、ダムの上・下流域に分けた生育調査にも取り組む。研究者は常駐しないが、

資源保護へ育成、放流

世界的なウナギ研究の權威で、ウナギの産卵場を突き止めた同大学大気海洋研究所教授の塚本勝巳さんが育成や観察方法などを助言するという。今年3月いっぱいまで閉校した渡川小校舎を研究室として活用する。校庭には自然と調和した庭園の整備も計画しており、観光誘致を含めた地域振興への寄与も見込まれる。県によると、県内2008年度漁期のシラスウナギ採捕量は1430トナだったが、09年度は545ト、10年度422トと大幅減で、不漁は全国的な傾向。

同町北郷区の北郷林業総合センターであった協定調印式で、菊田彦市町長は「自然との共生という観点からも大事な研究。ウナギ研究の新たなページが開かれることに期待している」とあいさつ。大森理事長は「ウナギの資源保護につながるような研究にしたい」と述べた。